

教員	講義タイトル	講義概要
河西 晃祐	一次史料からみる歴史“学”	歴史は暗記科目なのか？高校までの歴史科目ではなく、歴史“学”は一次史料を自分の力で読み解くものです。戦艦「大和」沈没を伝える日米の新聞紙面を一次史料としながら、歴史学のおもしろさを伝えます。
	ポツダム宣言を“読む”	教科書にも必ず記載されている「ポツダム宣言」。一般的には「無条件降伏」を日本に強いた、と理解されていますが、実際には「日本側にかなり有利な条件」を、連合国側が提示していました。名前だけを知っていて、なかなか実際に“読む”機会のないポツダム宣言を皆さんと解説していきます。
菊池 慶子	古文書を読んでみる	江戸時代の人々はどのような文字を書き、読んでいたのか。現代とは異なる文字の読み書きの歴史をひもとき、実際に古文書を読み解く実習を行います。
楠 義彦	宗教改革と国家	16・17世紀のイングランドでは、国教会を人民に浸透させるための政策（国教強制）を行いました。そのために政治権力が何をどのように行ったのか、国家にとっての宗教改革とは何であったのかをお話します。
佐川 正敏	われわれは北京原人の子孫か？！	アフリカで進化した原人は、170万年前までにはユーラシアへ広がり始めました。北京原人もその子孫です。しかし、われわれを含む現代人は、20万年前にアフリカで進化した新人が世界中に再拡散し、在来の人類を淘汰してしまった、という学説が有力です。この学説を検証します。
櫻井 康人	「十字軍」とは何であったのか？	不思議に思われるかもしれないが、「十字軍」が行われている時代に「十字軍」という用語はなかった。本講義では、「十字軍」を示す用語の問題から、「十字軍」とは何か、ということについて考えてみたい。
	「十字軍」と「贖宥状」	長期間にわたって全ヨーロッパ世界を巻き込んだ十字軍運動に必要な資金は、どのようにして捻出されたのでしょうか。本講義では、十字軍運動の財源、およびその変遷について、お話ししたいと思います。
	日本人初のエルサレム巡礼者	17世紀初頭、記録の上では初めてとなる日本人エルサレム巡礼者が現れました。本講義では、彼を通じて、当時の世界および日本（さらには東北）の情勢・状況を見てみたいと思います。
佐藤 義則	資料のデジタル化によって何が変わるのか	書籍や資料のデジタル化の現状を説明し、資料の発見と入手、利用スタイル、コミュニケーション等の各側面において、デジタル化がもたらす変化についてお話ししたい。
下倉 涉	怪しい隣人	隣国中国を「おかしな国」といかがわしく思っている人は少なくないでしょう。しかし、こうした認識には、かの地の人々の価値観や行動規範をよく知らないが故に生じたところもあります。この講義では、歴史学の立場から中国人のものの考え方についてお話します。
	秋田の石敢当－路上観察学事始め－	石敢当という魔除け石を知っていますか？中国に由来する辟邪のアイテムなのですが、本場では廃れてしまい、現在は沖縄がメッカといえます。本州にも江戸時代以降、琉球を經由して伝わり、その名残はかつての薩摩藩の領域内で確認することができます。そして現存数でいうと、次に多いのが何と秋田市！この摩訶不思議について紹介します。

教員	講義タイトル	講義概要
多賀 良寛	東南アジアの歴史を知る	歴史上そして現在においても、東南アジアは日本と極めて密接な関係を持つ地域です。ただ残念なことに、東南アジアの歴史や文化に対する私たちの一般的な理解は、必ずしも十分といえません。本講義では、東南アジアの地域の特徴と歴史の流れを分かりやすく提示するとともに、東南アジア諸国のなかでも日本との結びつきを急速に強めているベトナムの歴史について、最新の研究成果を踏まえてお伝えします。
	海からみたアジアの歴史	私たちは普段、歴史を国ごとに区切られたものとして考えがちです。これに対して海からみたアジア史は、国境にとらわれない新しい歴史の可能性をわたしたちに示してくれます。アジアの海におけるヒト・モノ・カネ・情報の広域的な動きを歴史から辿り、国境を超えたアジア諸地域のつながりを実感してもらうこと、これが本講義の目的です。
辻 秀人	大和王権の誕生	弥生社会から大和王権が成立していく過程を最新の考古学の発掘調査成果をもとに説明します。
	学芸員の世界	学芸員の仕事の面白さと難しさ、大学で学ぶ学芸員課程の内容、学芸員になるための方法等を実際の経験と本学学芸員課程の実績をもとにお話します。
	宮城の古代遺跡	宮城県には、たくさんの遺跡があります。仙台市遠見塚古墳は東北地方第5位の前方後円墳ですし、多賀城市多賀城跡は国の宝として特別史跡に指定されています。講義では具体的な遺跡を紹介し、考古学から見た宮城県の古代史を解説します。
永田 英明	古代の「東北」を見直す	教科書に出てくる東北地方の古代史といえば、蝦夷と多賀城と坂上田村麻呂?? 実際の東北古代史は、実にさまざまな地域・人々が主役となり、彼らの交流・衝突のなかで社会や文化が変わって激動の時代です。交通や交流という視点から、古代の「蝦夷」や「東北」について考え直してみましよう。
	旅する万葉びと	全国各地の遺跡から出土する木簡などの新発見の文字資料は、奈良に正倉院に残る古文書や、万葉集などの文学資料とともに古代の人々の「旅」の姿を具体的に教えてくれます。古代「日本国」の屋台骨となった万葉人の「旅」を考えることで、歴史資料と歴史学の魅力をお伝えします。
七海 雅人	もう一つの松島－鎌倉時代仏教文化の世界－	日本三景の一つ松島は、江戸時代より風光明媚な観光地として知られています。しかし、松島にはもう一つ、仏教文化の聖地という側面もありました。日本史のなかに松島という地域は、どのように位置づけられるのでしょうか。ここでは、鎌倉時代における松島のあり方を具体的に探ってみようと思います。
	世界遺産・平泉の世界	中尊寺金色堂に代表される岩手県平泉町の仏教関連の史跡群は、2011年、世界文化遺産に登録されました。この平泉の仏教文化をつくりだしたのが、12世紀の東北地方に君臨した平泉藤原氏です。平泉藤原氏になった独自の政治と文化は、日本史のなかにどのように位置づけられるのでしょうか。鎌倉幕府と比較しながら考えてみたいと思います。
	鎌倉・室町時代 武士の実像－いくさと暮らし－	鎌倉時代～室町時代、東北地方には関東の武士たちが移り住み、現地の武士たちと交流をもちながら、地域の新しいリーダーとなっていきます。彼らは、どのような暮らしをしていたのでしょうか。また、合戦の実像は、どのようなものだったのでしょうか。古文書の内容を紹介しながら、みなさんといっしょに探究したいと思います。

教員	講義タイトル	講義概要
政岡 伸洋	民俗行事を問い直す	祭りや芸能など、地域の中で昔から変りなく受け継がれてきたイメージのある民俗行事。はたして本当にそうなのか？本講義では、ちょっと違った視点から問い直すことで、民俗学の面白さを体験してもらいます。
渡辺 昭一	グローバル・ヒストリーの面白さ	グローバル化した現代社会を見据えるために、歴史の対象となった「20世紀」をどのように理解すべきかを、19世紀と比較しながらその特徴を考えます。特にヨーロッパ・アメリカとアジアの関連に注目します。
小沼 孝博	砂漠の文化：中央アジアのオアシス世界	ユーラシア大陸中央域に広がる乾燥地帯。日本とは全く異なる環境で築きあげられてきた、中央アジアのオアシスに住む人々の歴史・文化・宗教を学ぶことで、異文化理解の視点を養う。
竹井 英文	城郭研究と戦国時代	戦国時代を代表する遺跡として、皆さんの身近に残る城跡があります。今はもう単なる山になっていて、一見すると何もないように見えますが、実は当時の社会を考えるための重要な「史料」なのです。城跡の見方、調査方法などをご紹介しますながら、皆さんを城郭研究の世界へご招待したいと思います。
	織田信長と「天下布武」	信長は、日本全国の統一、すなわち“天下統一”を目指していたとされることが多いです。ところが近年は別の説が有力になりつつあります。当時の古文書から、意外な“天下”の姿を解明してみましょう。
杵淵 文夫	欧州統合の歴史	欧州統合は、今から約70年前に始まった“つい最近”の取り組みなのか？実は、ヨーロッパ中世以来の長い歴史のかけで欧州統合を地味に細々と提唱し続けた人々がいたのです。彼らの努力は長い間、全く実を結びませんでした。歴史を振り返り、彼らがなぜ失敗したのか、現代の欧州統合に何が受け継がれたのかを考えます。
金子 祥之	見てはならない史料を読む	歴史史料には見ることも、触れることも許されてこなかったようなものがあります。たとえば、地域の神社に残された史料は門外不出であることが少なくありませんでした。そうしたヒミツの史料を紐解いて、地域の歴史を探っていきます。
	環境問題を「文系」が考える	「文系」の学問分野は社会の役に立たないと思われがちです。歴史研究は、そうした典型例ともいえます。では、実際の社会問題（環境問題）を考える際に、歴史研究にはどのような貢献ができるのでしょうか。民俗学の調査研究を事例に、みなさんと考えてみたいと思います。